

6 デザイン

# 社会問題解決型のビジネス創発を実践する コ・デザインコミュニティ「SPLAB」

株式会社 NTT データ（以下、NTT データ）金融事業本部は 2021 年 9 月 SPLAB を本格始動させる。本稿では、「社会問題・社会課題解決」という共通のテーマの下、新領域の事業創発をサポートする SPLAB について紹介する。

## 金融領域から社会変革を。 業界初の SPLAB の挑戦

社会において未来の予測が難しくなっている状況を意味する「VUCA<sup>※1</sup>（ブーカ）」。「現代は「VUCA の時代」と呼ばれているものの、金融領域は VUCA への適応が追いついていないという事実がある。NTT データは、金融領域が VUCA に適応することにより、社会の創造性は飛躍的に向上するとして、2020 年 8 月、コ・デザインコミュニティ SPLAB（スプラボ）を発足させた。同社は、ビジネスのスタート地点を“作る”から“デザインする”に繰り上げ、金融領域からの社会変革をサポートする意向だ（図1）。

社会問題解決型ビジネスデザインが必要とされているにもかかわらず、今まで日本ではこれに特化した

専門機関はほとんど見られなかった。SPLAB のような発想・アクションは業界初と言っていいだろう。

## マイナスゼロの姿勢では 真の DX は実現できない

DX の殆どは「今不足しているものを補う」マイナスゼロの姿勢、つまり対症療法的に行われている。過去のような安定した社会であればこうした姿勢に問題はないものの、VUCA に適応するためには、マイナスゼロの DX では社会変化に追いつけない。いたずらに「課題発生→課題解決」をリピートするだけだ。SPLAB は、課題が発生しなくなるような新しい社会を創造することが DX の本質であるとしたうえで、課題を生み出している社会背景を見極め、ゼロイチの姿勢を取り、共創に



株式会社 NTT データ  
金融事業推進部  
デジタル戦略推進部  
企画担当 天野 晴久氏

よるサステイナブルな未来を目指す。

## 社会問題からビジネス案を 発掘するコミュニティ 「DX LOUNGE」

それではどのようにしてゼロイチの DX を推進するのか?天野氏は次のように指針を語る。「私たちは慣習に縛られないアプローチができるコ・デザイン（参加型デザイン）によって、社会問題を解決したいと考えています。従来のビジネスデザインは、お客様からの依頼を受けてベンダーがそれに応じるという提供型デザインが主流でした。これでは単一企業、特定業界の慣習に縛られてしまいます。これに対し参加型デザインは、社会問題をテーマに、企業、公民組織、NTT データが一丸となってビジネスデザインに取

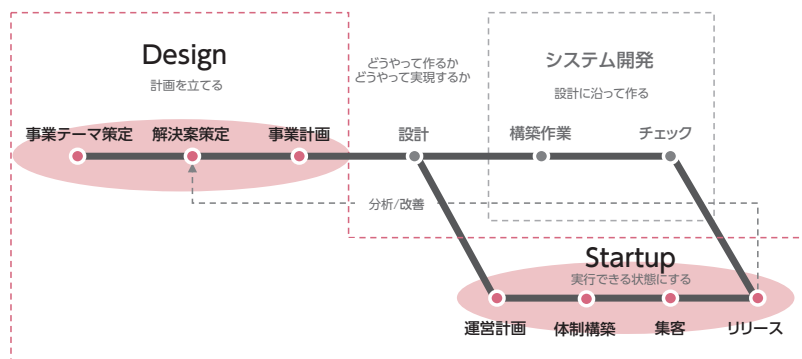


図1 SPLAB のカバー領域

り組みます。これによりダイバシティは担保され、特定の業界慣習に縛られることはなくなります」(図2)。

そこで、NTT データは社会問題解決をテーマにコ・デザインを行うコミュニティ(場)として SPLAB の環境を“リアル”と“リモート”のハイブリッドで用意している。

“リアルな場”としては、大手町にお客様限定<sup>※2</sup>のワーキングスペースを用意し、ここに SPLAB メンバーが常駐し、ビジネスデザインをサポートする。現在、リアルな場所の提供という意味で、所謂コワーキングスペースは市中に多く存在するが、それらは作業や会議の場所であって、普段とは異なる刺激的环境ではあるが、“同空間にいる”という以上の関係性は生まれにくい。また、有識者の知見や情報、ビジネス手法は利用者が独自に用意しなければならない。SPLAB は、単なる場所の提供ではなく、NTT データや他企業との共創がベースであり、ビジネスデザインの専門家が伴走し、DX に必要な情報や手法を提供するという点において、コワーキングスペースとの差別化を図っている。

一方、“リモートの場”としては、お客様と常時繋がるコミュニティツール、ワークショップやリモート

接続を実現する各種オンラインツールを提供する。

### 社会目線の共通テーマで DX に取り組む共創活動を NTT データがリード

SPLAB の特長の 1 つは、ビジネスデザインの有識者が事業化まで確実に伴走する点にある。SPLAB では、担当プロデューサー/ディレクターのコンダクトの下、社会問題の探索から事業化までのフェーズにおいて、デザインチームが、各専門分野からサポートを行う。

読者の中には、NTT データがビジネスデザインをリードすることに懸念を抱かれる方がいるかもしれない。しかし、NTT データは外部から実績のある有識者をデザインディレクターとして採用するなど、同社の強みである金融領域の理解に加え、新しいアプローチができる体制を万全に整えている。また、SPLAB は社会課題の有識者である日本 NPO センターとも連携を図ることで、個人の感覚に偏りがちな社会課題の把握についても、実態確認を可能にしている。

### 目的や状況に応じた 3つの提供サービス

SPLAB はコミュニティの実体と

して「DX LOUNGE」を会員制で提供する。DX LOUNGE には、「パブリックラウンジ」「プライベートラウンジ」の2つの枠組みがある。

「パブリックラウンジ」は、社会課題の本質を理解し、新規ビジネスの種を見つけるためのコ・デザインコミュニティで、基本的に無料。会員登録後にワーク環境へのアクセス権が付与され、3か月ごとに設定される社会課題テーマや、過去に扱ったテーマなどに対し、コミュニティ内で進化探索を実施する。

一方「プライベートラウンジ」は有料で個社別のプライベート形式で DX LOUNGE の利用が可能。社会問題解決に資する新規ビジネスの種を見つけ、ブループリントにブラッシュアップさせていくもので、PoC を伴ったプロジェクト化の申請ができるレベルまでビジネスモデルの骨子を創り上げる。

そして「個別プロジェクト」はブループリント以降のビジネス開発を支援し、本格的な事業化を目指す。

また、これらの内容は、過去に地銀と共に実証実験を実施し、ビジネスとして成立可能と判断された事例などをベースとしており、有効性も確認されている。SPLAB は、単一企業で発芽条件が足りない環境を、多様性・専門性を確保することで条件を満たし多くの芽を出させ、未来社会に向けて強い大木を育てる場づくりを行っていく。

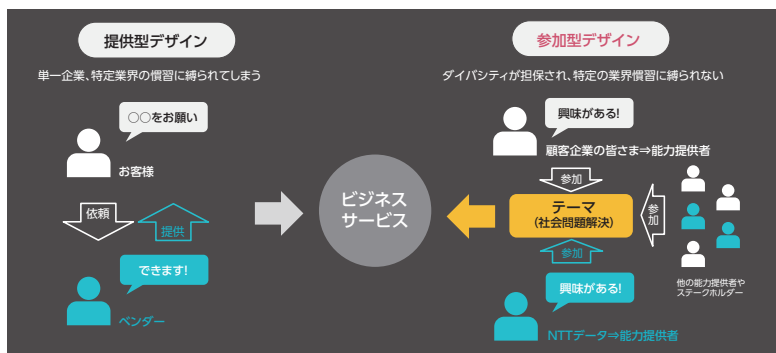


図2 慣習に縛られないコ・デザイン×社会問題解決

※1: Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性) の頭文字から。

※2: SPLAB 利用者限定。感染対策のため、オフィス利用は予約制。